

令和7年度訪問型家庭教育支援事業

家庭教育支援実践交流会

日 時：令和7年10月22日（水）13:30～15:30

場 所：和歌山県立情報交流センターBig・U

参加者：34名

つながりをチカラに！

これからの家庭教育支援を考える



話題提供

話題提供から見てきた地域の実践と課題



日高町教育委員会 橋谷氏

日高町では、人口増加に伴い家庭教育支援の必要性が高まり、事業がスタート。小学校1年生で2回、2年生で1回の家庭訪問を実施しています。

少しずつ関係性が築かれ、「学校に言うほどじゃないけれど…」というような話も保護者から聞けるようになってきています。

一方で、就学前と就学後の環境のギャップに戸惑う保護者も多く、「就学前に1回訪問の方がよいのでは？」という提案もありました。



由良町教育委員会 鈴木氏

由良町では、家庭訪問に加え、保護者への学びの提供や「絵本読み聞かせ&おしゃべりカフェ」など、保護者同士の交流の場を設けています。

「こどもたちは何をしたら喜んでくれるかな？」と常に考えながら企画されているそうで、こどもにとっても嬉しい場所になっています。

ただし、参加者の固定化や、学校との連携の難しさなど、支援員の悩みも率直に語られました。



有田市家庭教育支援チーム「みらい」 辻本氏

「みらい」が「未来」をつくるという素敵なタイトルから始まった発表。福祉部からの必要感を受けて、小学1・2年生家庭への訪問を延長。課題は多くありましたが、一つずつクリアしながら、支援員同士が悩みや課題を共有し、課題を分け合って、チームとして支え合える関係を築いている、チームづくりを丁寧に積み重ねている様子が伝わってきました。「きれいごとこそ大事」という言葉が印象的で、こどもたちが未来に向けて夢や希望を持てるようにという思いが伝わってきました。



和歌山市「NPO法人Happiness Kids Labo ど〜なっつ」 畑上氏

「ど〜なっつ」は、こどもと家庭を中心に、学校・地域・その他の機関と連携し、ドーナツのように切れ目のないサポートを目指すチーム。

親子イベント、出前講座、おしゃべりカフェ、ひとり親家庭交流会などを実施し、今後は地域に出向いて横のつながりを支えていきたいとのこと。シニア世代との交流も視野に入れ、「すべてはこどもたちの輝きのために」という温かい思いが詰まった発表でした。

チャットde 共有①

参加者から4名の話題提供者へのコメント

Share!

- Anonymous
就学時前の訪問は有効だと思います。第1子の入学時は親も色々聞きたいことがあるかも知れないし、発達に課題を抱えている場合なども、心配事を共有できるかも。
- Anonymous
家庭支援、子供支援、何十年活動しても同じ様な悩みやの課題がクローズアップされてきます。根本的な活動システムが、必須に思います。
- Anonymous
絵本読み聞かせ、おしゃべりカフェなど訪問だけでなく他の活動もされていて、すごいですね。
- Anonymous
答えを、出さなくても、訪問することに、意味があると思います
- Anonymous
ネーミングに活動に対する意識の高さを感じました 目的を見失わずに継続することが大事ですね
- Anonymous
一人ひとりのこどもが、幸せに！ それは、福祉であっても教育であっても同じだと思います。
- Anonymous
和歌山市という大きなまちで、家庭教育支援を行うのは本当にたいへんかと思います。少しでも多くの方にドーナツの取組が広がればいいなと思います。



チャットde 共有②

あなたがイメージする「家庭教育」とは？

Share!

Anonymous
早寝早起き

Anonymous
体を大事に、友だちとなかよく、自然を大切に

Anonymous
礼儀や、人としての在り方

Anonymous
名前を呼ばれたら[はい]と返事をする！

Anonymous
近所の人とのあいさつ

Anonymous
しんどい時も笑顔をわすれずに！

Anonymous
人として生きていく力

Anonymous
兄弟姉妹仲良く、助け合う

Anonymous
いただきますごちそうさまを言う

Anonymous
ありがとう

Anonymous
自分がされて嫌なことは人にするな

Anonymous
素直であること

こうした力が弱まりつつある今だからこそ、家庭教育「支援」が必要なのです。



グループディスカッション つながりをつかろう！

“
グループ
ディスカッション
テーマ例
”

1. 地域のつながりを活かした家庭教育支援の工夫
2. 福祉・学校との連携で広がる支援の可能性
3. 子育て家庭が「孤立しない」ために地域でできること
4. 家庭教育支援をもっと知ってもらうための広報・啓発の工夫
5. 支援の現場で感じた「成功体験」から学ぶこと
6. 未来の家庭教育支援 10年後に目指したい地域の姿

予定していた自己紹介タイムが取れませんでした。皆さん自然と活動紹介を始め、会話が途切れることなく盛り上がりました。家庭教育支援チームの方々は、自分の市町での活動を丁寧に説明され、他分野の参加者は興味津々で質問や称賛の声をかけていました。

あっという間に時間が来て、「楽しかった！」と笑顔で帰られる方、名残惜しそうに会場でおしゃべりを続ける方も。まさに、「つながりをつかろう！」する時間となりました。





参加者の声

今日のつながりが、今後の地域の支援活動の広がり！

01 話題提供について

- 行政と支援チーム、両方の報告が聞けて大変良かったです。
- 同じような悩みや苦勞を抱えていることが分かり、心強く感じました。
- 疑問に思っていたことが解決し、すっきりしました。
- 他市の活動を知ることができ、参考になりました。
- 各市町の特性に合った活動が紹介されていて、勉強になりました。
- 4市町の取り組みが大変参考になりました。
- 自分の地域以外の事例を知ることができ、課題の共有もできました。
- 支援の形はさまざまで、自分たちも少しずつ頑張れているのかなと思いました。
- 話題提供者の皆様へ感謝します。多くの学びがありました。
- 地域によって支援の形や担い手が異なることが分かり、視野が広がりました。
- 他市町村や民間の支援グループの活動を知ることができ、勉強になりました。
- 各地区の取り組みやイベントがとても参考になりました。
- 家庭教育支援チームの存在を知り、県内にもっと広がればと感じました。
- 地域によって支援の形が異なることを実感しました。
- 先進事例を分かりやすく紹介していただき、今後の取り組みに活かしたいです。
- 訪問支援の重要性を改めて感じました。
- 我がチームは今年4月に発足したばかりなので、今日の学びを参考に頑張ります。
- 支援チームごとに支援の仕方が異なり、それぞれの地域に合った支援が行われていると感じました。
- 小さな町の熱心な活動を知ることができ、参考になりました。

02 グループディスカッションについて

- 民間の家庭教育支援チームが素敵でした。
- 普段関わることができない方々と交流できて良かったです。時間が短く感じました。
- 自分の知らなかったことをたくさん知ることができました。
- 支援員の現場の声や行政の手続きについて具体的に聞けて有意義でした。
- 話しやすい方々ばかりで、素敵なグループワークになりました。
- 和歌山県内に家庭教育に関心のある方が多くいることに驚き、励まされました。
- 他の市町の活動を聞けて良かったです。今後の活動に活かしたいです。
- ど〜なっつの活動に感銘を受けました。話すことで元気が出ました。
- 初めての形式でしたが、参加しやすく、大変良かったです。
- 発表がなく、リラックスして話せて楽しく学べました。
- 他の市町の方と情報交換できる貴重な機会でした。
- 家庭訪問支援の広報やサポートプランについて知ることができました。
- 活動形態の違いを知ること、自分たちの活動を振り返るきっかけになりました。
- 自己紹介からそれぞれの魅力ある取り組みが伝わり、時間があっという間でした。
- 一人ひとりの思いに寄り添う姿勢に勇気をもらいました。
- 今後もしっかりつながって協力していけそうです。
- 交流時間をもっと増やしてほしいです。
- 意見のグルーピングや主催者のまとめがあると、より理解が深まると思いました。
- チャットの活用で多くの意見が見られて良かったです。
- 福祉の方も関わっていることが分かり、視野が広がりました。
- 発表のプレッシャーがなく、安心して話せました。
- 学びの場として、自分の糧になりました。